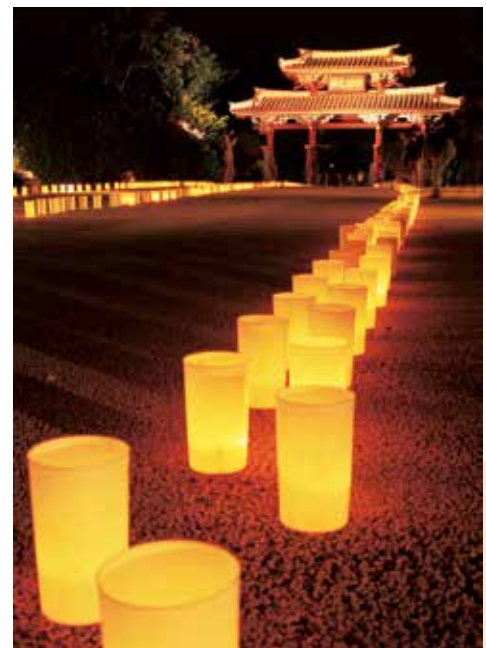


ご覧になれます。

2018 **10** No.529

- 1 **くがにくとぅば[黄金言葉] vol.175**  
**縁 + Moments (この時)**  
 株式会社エンモメンツ 代表取締役 大湾 文子
- 6 **地域リレーションシップ情報 168**  
**沖縄総合事務局経済産業部の最近の取組について**  
**2019年10月に消費税率が10%に引き上げられます。**  
**～事前の準備が必要です。～**
- 8 **おきぎんマーケティングレポート**  
**第73回おきぎん企業動向調査**  
**(2018年7～9月期) 調査結果**  
 ～県内(地域・業種別)の経営環境と業況感～
- 16 **けいざい風水**
- 18 **おきぎんカトレアクラブ通信**
- 20 **県内景況・確報**  
 2018年7月の県内景況
- 28 **国内景気動向**
- 30 **沖縄マーケティング情報**  
 ①沖縄県内の事業所数・従業者数・人口・世帯数  
 ②世界の中の沖縄(年次)  
 ③グラフでみる沖縄経済  
 ④数値でみる沖縄県・全国の経済動向(月次)
- 50 **経済社会のできごと(沖縄、国内・海外)**  
 2018年8月
- 52 **各種セミナー等開催インフォメーション**



表紙写真/首里城守礼門ライトアップ・万国津梁の灯火

## 縁 + Moments (この時)



株式会社エンモメンツ  
代表取締役 **大湾 文子**



今回は、自身のバックボーンである沖縄と台湾との懸け橋となる事業に取り組み、「瀬長島台湾夜市」のイベントコーディネーターも手掛けた株式会社エンモメンツの大湾 文子代表取締役に、今の沖縄観光やその未来などについてお話を伺って参りました。

### 大湾代表のプロフィールについて 教えてください

1980年生まれです。父親は台湾人で母親は沖縄出身、台湾で中学2年まで過ごし、祖父母のいる沖縄へ移住しました。高校は向陽高校国際文科へ入学し、2年の時に1年余りのアメリカ留学を経験しました。復学後、慶応大学総合政策学部、早稲田大学大学院を卒業し、現在は、インバウンド対策のコンサルティングや、日本企業並びに海外企業の進出サポート、IT設計などのコンサルを行う株式会社エンモメンツの代表を務めています。

他に、雑誌のモデルやタレント、また、8才と6才(双子)の3児の母でもあり子育てにも奮闘中です。



▲雑誌のモデルやタレントとしても活躍中の大湾代表

### これまでの経歴の中で自覚(発見)したことがありますか

「ボーダーレス」です。中学校2年まで台湾の日本人学校に通っていたのですが、よく傍で「混血」と言われたり、沖縄に移住しても「帰国子女」という色眼鏡で見られるという経験をしました。

自分は「台湾人なのか、日本人なのか、アイデンティティってなんだろう?」と悩んでいた時期もありましたが、今現在は「ボーダーレス」です。

実際、沖縄と台湾は地理的には非常に近いのですが、今、一番大きなボーダー・壁になっているのは「言葉」だと感じており、私がパイプとなることで、ボーダー・壁になっているものを除いていければと思っています。

### 國映館跡地のホテルプロジェクトについて 教えてください

元々は、家族で沖縄に自宅を建てようという話から始まったもので、県内を回って土地を探しているうちにホテルプロジェクトに発展し、その開発交渉を担うために日本法人を立ち上げ、私が代表となりました。

那覇国際通りのホテルに宿泊していた時に、窓を開けると、目に飛び込んできたのは空き地となった國映館の跡地でした。中学生、高校生の際に、デート、遊びに来ていた映画館を思い出し、沖縄がこんなに変わってしまったのかと、悲しくなったことを鮮明に覚えています。

昔、国際通りを歩いているのは観光客だけではなかったような気がします。地元の高校生が、カップルが歩いたり、週末には、おしゃれをして家族で出かけた場所という記憶がありました。あの、生き生き、わくわくとした躍動感

が無くなった……そう気づいた瞬間にホテルプロジェクトが始まりました。

### 開発中のホテルは どのようなコンセプトですか

現在の国際通りはインバウンドのための通りになってしまいました。国際通りでオープンを予定しているお店やホテルの多くは、おそらくインバウンド対策に特段注力されているかと思いますが、私たちがこのホテルを建設するにあたってまず考えたことは、如何にすれば、県民の足が国際通りに再び戻ってくるか、利用していただけるようになるかということです。

ホテルは沖縄・琉球を全面に押し出すのではなく、地元の方々にも喜んでいただけるように「和」や「中華」の要素を感じられるレストランが展開される予定で、また、沖縄式の結婚式にも応えられる大人数収容のウェディングホールも計画しています。



▲那覇国際通りにて開発中のホテル

### 今の沖縄観光についてどう思いますか

私が沖縄の観光に対して日頃残念に思っているのは、沖縄は他県では類をみない「押し売り観光」をしているということです。

国際通りを歩いてみても、同じ様な沖縄の土産物が並び、どこに行っても島歌が聞こえ、琉球料理屋が林立するといった具合で、全く代わり映えがしません。本当にインバウンドの需要に応えられていると考えているのか尋ねてみたいところです。

特に、大きなボリュームを占めるアジアからのインバウンドが、沖縄に「沖縄」を求めているのか、それとも「日本」を求めているのか、その辺りをしっかり意識しないといけないのではないのでしょうか。

これを理解する上で、一番分かり易いのは、クルーズ船で寄港するインバウンドのお土産袋の中身です。袋は、日本製の菓子類、医薬品・健康グッズ、化粧品等で占められ、沖縄のお土産は1～2箱です。これが“リアル”な需要です。

もし自分がアメリカに行って求めるのは何なのか、カウボーイハットでしょうか？そういった視点に置き換えて考えると、答えは自然的に出てくるかと思います。

### インバウンドが沖縄に求めている 観光メニューはありますか

沖縄観光はリピーターが多いのが特徴です。特に台湾からのインバウンドは1度目は沖縄本島を一周し、2度目、3度目は離島に行ったりします。そこで見られるのが、親子連れとシニア連れが多いという「年齢層のM字」現象で、その背景には、フライト時間が約1時間のため、子連れや年配の方の負担になりにくい、食事も口に合いやすく、気候もほぼ変わらないという誘因が挙げられます。

観光メニューを考えるのであれば、この2つの層にターゲット絞ってみると、面白い効果が出る可能性があるのではないのでしょうか。

既に石垣島には、専門のベビーシッターが子供達を豊富なメニューで面倒を見てくれ、親は1日中、バカンスを楽しめる人気のサービスがあります。ショッピングセンターにも、そのようなサービスがあれば、その間に親はゆっくりと買い物が出来、落としてくれるお金も更に増えてくるかと思います。

また、シニア向けには、日本式薬膳ツアーとか、ヘルスケア付きのツアー等、趣向を凝らしたものを展開すると受けるかもしれません。

## 沖縄観光の未来は

沖縄観光はずっと右肩上がりですが、今が変換期だと見ています。停滞してから、「さあどうしよう」と考えても、そこから立て直すのは難しく、好調な今こそ、次はどのように変換して行くのか、沖縄観光の未来を考える必要があります。

そうしないと、次のピークを創造するのは難しくなるでしょう。

私は、今おかれている環境、前述した「押し売り観光」を一度、「脱色」しないといけないと思っています。沖縄・琉球色を全部脱色する必要はないですが、和の要素や、ヨーロッパやアメリカなどの国際的な要素も取り入れていかないと成長しません。

一昔前の沖縄観光はアメリカナイズした沖縄が売りでしたが、今の沖縄は内地化し、本土の人達のアイデアやインスピレーション等も入ってきています。こうした趨勢の中でどう変換していくのか、私もその一端に関わっていきたいと思います。

## 今後の御社の方向性は

人間の交流です。多言語に特化した人材紹介、ビジネスマッチングや文化交流事業といった正にボーダーを超える事業になるかと思っています。

弊社では、人と人のご縁に感謝し、そのご縁により得られるかけがいのない瞬間を大切に事業に取り組むという思いから、商号を“縁+Moments（この時）”でエンモメンツとしています。

分かりやすいところでは、文化交流事業において、児童の音楽コン



▲第3回マエストロ杯  
台日国際児童音楽コンクール

クールを沖縄と台湾で開催しています。今年で3回目になり、コンテストの優勝者が台湾と沖縄を持ち回りで訪問して、演奏する場を持ちます。

初めて海外に行った、海外の子供のレベルに触れて刺激になったといった感想が寄せられ、子供達にとって音楽を通じた、言葉を越えた素晴らしい経験になっているものと確信しています。

また、今年にはサマーキャンプをパイロット的に開催しました。台湾では子供達を英語のサマーキャンプに送るという習慣があります。それを沖縄で出来ないかと思い開催しました。沖縄には英語を学ぶ環境が十分にありますが、アメリカに送るよりも近い上、治安もよく低コストで楽しめます。



▲English Summer Camp

更に、今年4月28日から5月6日に豊見城市の瀬長島ウミカジテラスで企画開催した「台湾夜市」は、食文化と人材の両方の交流になったかと思っています。

台湾から本場屋台の料理人40人を招聘し、台湾の本場・本物の味を多くの県民に堪能して頂きましたし、日台双方のシェフは、レシピや秘訣を教え合う等し、刺激の多い時を過ごしたようです。

もちろん苦労もありました。本場台湾屋台そのままの味を再現するため、沖縄にない調味料や食材もたく



▲4/28～5/6に開催した  
瀬長島台湾夜市

さんあり、その輸入項目は約490アイテムにも  
のほりました。パクチーにしても味が違ったり、  
バジルも台湾バジルと日本で売られている一般  
的なイタリアバジルとは味が違ったりと、食材  
調達についての裏話は尽きません。

大好評につき、9月中旬には第2弾も開催され  
ましたし、またどこかに出現するかもしれません！

## 大湾代表の座右の銘はありますか

「弱音を吐くなら ジョークを吐け」です。  
弱音を吐く時間があるならジョークの一つや  
二つを考えて吐け、つまり、時間を無駄にしな  
いということです。



En Moments  
あなたの欲しい「答え」見つけます。

### 【お問い合わせはこちらまで】

〒900-0014 沖縄県那覇市松尾2-2-14 505号  
TEL/FAX: 098-996-5152  
Mail: customerservice@enmoments.co.jp

## 株式会社エンモメンツ 事業紹介

変化し続ける国際社会・ビジネス環境の中で、多様な人の多様な交流により形成されていく  
新たな社会の様態を機微にとらえ、かかる変化から生まれる新しい需要を満たし、社会的課題  
解決に貢献する事業を展開しています。

### 【人材紹介事業】

訪日観光客が増大し、インバウンド対策にかかるニーズが拡大する中で、とりわけ多言語対応可能  
な人材の紹介に特化したサービスを提供します。企業にご満足いただけ、個人一人ひとりが活躍でき  
るウインウインのサポートを目指します。

### 【コンサルタント／コーディネート】

日本企業の海外進出や海外企業の日本進出にかかるコンサルティング、インバウンド対策コンサル  
ティング、海外関連事業のコーディネート、海外ビジネスマッチングを行います。

### 【文化事業】

異文化体験・異文化理解をテーマに、グローバルな人材育成に資する事業を行っています。

- マエストロ杯日台国際児童音楽コンクール：台北市名家児童芸術推廣協会（中華民国台湾認定NPO）の日  
本事務局を社内に設置し、2016年より「マエストロ杯日台国際児童音楽コンクール」を毎年開催。  
協会HP (<http://www.tmcada.org>)

- English Summer Camp

沖縄にあるアメリカンスクールと提携し、沖縄で英語による学習体験ができるサマーキャンプを開催。

### 【IT事業】

ネットショップ、京都観光ポータルサイトの自社運営のほか、システム設計・サーバー構築・LAN  
構築（工事）・スマートフォンアプリ開発・WEBアプリケーション開発・ホームページ制作・インター  
ネットマーケティング等のアドバイスをしています。

### 【翻訳サービス】

ローカライゼーションを超えて、クライアント様のメッセージをお届けすることを大切に、企業イ  
メージやコンセプト、更には現地の趣向を反映した翻訳サービスを提供します。

### 【通訳サービス】

国際会議における同時通訳から、個別の会社訪問や商談サポートまで、クライアント様のご要望に  
応じたサービスを提供します。

# けいざい風水

## シェアリングエコノミーの浸透 旅行者の安全最優先に

2017年に沖縄を訪れた外国客の入域観光客数は254万人となり、6年連続で前年を上回り過去最高を更新しましたが、近年、全国的に外国客の宿泊施設利用動向に変化が生じています。

国土交通省観光庁が17年11月に発表した「【トピックス分析】17年7-9月期 訪日外国人旅行者の宿泊施設利用動向」によると、訪日外国人旅行者が日本滞在中に利用した宿泊施設のうち、「有償での住宅宿泊≒民泊」の利用率が17年に入って大きく伸びているそうです。特に訪日外国人旅行者のうち「観光・レジャー」目的客での利用率が高く、年代は「20才以下」の若年層、同行者は「家族・親戚」「友人」が多く、往復交通手段は「LCC」利用者が非利用者より多いのが特徴だそうです。

都道府県訪問率でみると、「有償での住宅宿泊」利用者は非利用者に比べて、「大阪府」「京都府」への訪問率が高い傾向にあり、一方、「北海道」や「愛知県」「沖縄県」の訪問率は「有償での住宅宿泊」利用者の方が低い傾向にあるようです。

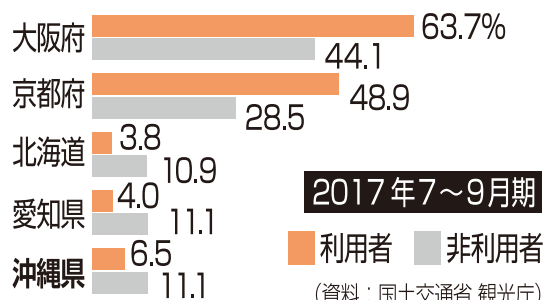
このような中、6月15日に住宅宿泊事業法が施行されます。

県内でも民泊施設の利用と施設数の増加が進んでいるとみられており、一部でトラブル・迷惑行為（騒音、ごみ、駐車場など）が報告されているようですが、旅行者ニーズの高さ（シェアリングエコノミーの浸透）や、空き家活用による住宅ストック問題の解消、さらには新たな民泊ビジネス創出による経済効果といった民泊推進の必要性も認められています。地域社会と宿泊者の安全・安心を最優先した上で、適切な法の運用と観光利益の社会波及を期待します。

（おきぎん経済研究所 企画・総務部長

中江 正一郎）

「有償での住宅宿泊」利用別  
訪日外国人観光客の都道府県別訪問率



（資料：国土交通省 観光庁）

（2018年4月8日掲載）

## 中古車輸出ビジネス 県内で飛躍的な伸び

県内の中古乗用車の輸出動向は近年、飛躍的な伸びを見せています。輸出台数は、ここ十数年は2桁台で推移していましたが、2016年に391台、17年には475台と大幅に伸びており、輸出額も数百万から数千万円単位だったものが、数億円にまで達しています。主な輸出先はニュージーランドやスリランカなどとなっています。

本県では、国際物流拠点の形成へ向けたさまざまな支援策などが講じられてきました。その一環として、数年前から中古車輸出ビジネスモデル実証事業で自動車専用船が寄航するなど民間事業者による県内でのビジネス継続・拡大に向けた動きが見られます。

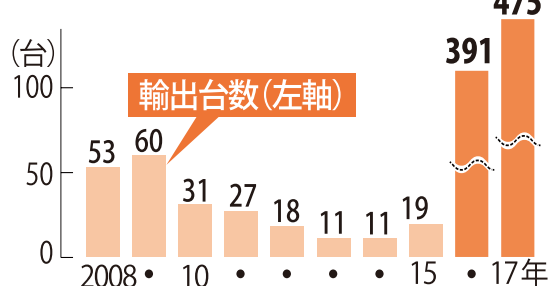
鉄軌道などが少なく移動（生活）手段の中心を自動車が担う本県では、多くの観光客が訪れることもあり、レンタカー車両も有する自動車社会です。また、中長期的な視点で捉えると、中古車両や関連部品なども含め、輸出資源を保有するポテンシャルを秘めた地域でもあります。

今後、国内の人口減少や国際的な資源の有効活用などの動きを見据えると、資源を2次・3次利用するリユースの動きは加速することが予想されます。

このような中、ポテンシャルを県内で顕在化（産業化）させるには、将来的にビジネスモデルの重点を地元へ根付かせる必要があります。そのために、商流面で県内におけるビジネスマッチング機会の強化（検証など）、物流面で対応人材やインフラの整備・強化などにより、物流の機動性や機能性を段階的に高めていく必要があります。

（おきぎん経済研究所 研究員 當銘 栄一）

県内の中古車輸出の動向(台数)



出所：貿易統計より作成。注：上記は「中古乗用車」（概況品番号：70503012）を抽出したものである。

（2018年4月15日掲載）

## ビッグデータ・AI活用 新指標で動向分析

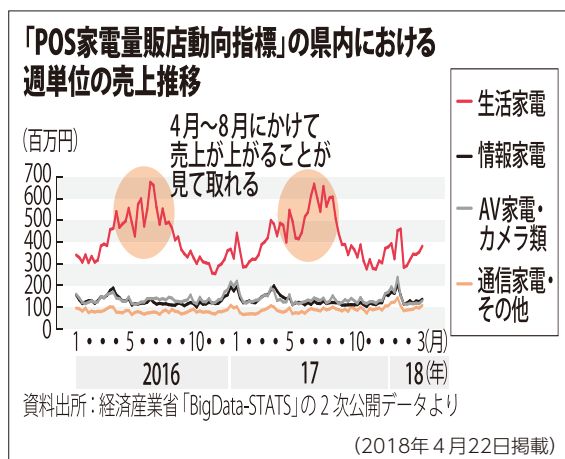
経済産業省は、ブログやTwitter等のビッグデータ、および人工知能（AI）技術、民間企業が保有するPOSデータ等を活用した、「BigData-STATS」という新しい経済指標の開発を進めています。これまでに「SNS×AI景況感指数」、「SNS×AI鉱工業生産予測指数」、「POS家電量販店動向指標」が公開されました。

そのうち「POS家電量販店動向指標」は、家電大型専門店の売上情報をPOSデータで収集し、「販売動向」を1日単位で捉えられます。「商業動態統計」の確報が翌々月の公表なのに対し、翌月4日程度で公表されます。

図は2016年1月10日の週から18年3月4日までの112週間の沖縄県調査です。図からは生活家電は売上が大きいものの、顕著な季節変動が観測され、4月から8月の売上が大半を占めている様子が分かります。また、AV家電と情報家電、通信家電などは同じ動きをしており、年末年始、卒業・入学式などの季節行事の影響が大きいことが分かります。

生活家電はさらに「家事・調理」、「空調・季節」、「理美容・健康」と細分化でき、季節変動は「空調・季節」が主因であることが分かっています。このように近い将来、景気指標は速報性とともに内容の詳細化が期待され、マーケティングや家計の消費プランに役立つことが期待されています。

(おきぎん経済研究所 研究員 奥平 均)



## ベンチャーのファイナンス 種類株式の利用増加

リーマンショックを境にベンチャー企業を取り巻く環境は低迷していましたが、政府の後押しなどもあり、近年は好転しつつあります。ベンチャーキャピタルによる投資も増加傾向にあり、「ベンチャー企業白書2017」によれば、国内向け投資金額は13年から4年連続で増加しています。

日本国内は、欧米に比べてベンチャー企業へのリスクマネー（回収不能リスクなど、ある程度のリスクを取った上でその企業の将来性を評価し、提供される資金）の供給体制が弱いとされていますが、最近では種類株式の活用など、調達手段が多様化してきています。

種類株式は、いわゆる普通株式と異なり、残余財産の分配、議決権の行使できる事項など、他の株式とは異なる権利内容を持つ株式で、6年5月に施行された会社法によって、一定の条件の下で発行することが認められました。かつては普通株式取得による投資が一般的でしたが、種類株式は設計次第で経済的価値と支配権をコントロールでき、投資家と企業の双方にメリットがあることから、理解が進むにつれ好まれるようになりました。上記白書によれば、近年、種類株式による投資は着実に増加しているようです。

一方、種類株式の発行には、定款の変更のほか、投資契約・株主間契約による補完、事業計画に沿った資本政策など、法務、税務、ファイナンスが複雑に絡み合っています。このため知識・経験を有する専門家に相談し、慎重に検討する必要があります。

(おきぎん経済研究所 主任研究員 仲本 功)

